

道徳の時間の目標

道徳教育の目標に基づき、各教科等における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成する。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

自分の考えを基に、書いたり話し合ったりするなどの表現する機会を充実し、自分とは異なる考えに接する中で、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを自分の考えを深め、自らの成長を実感できるよう工夫する。

自分と異なる考えや思いに接することができるように工夫した事例

- 1 学年 第3学年
- 2 主題名 みんなのもの みんなの場所
(文部科学省資料：「ひどいよね」)



- 3 ねらい
約束や社会の決まりを守り、社会生活の中で守るべき公德を大切にしようとする態度を養う。

4 言語活動の充実の視点

視点1：立場が逆転し、「ひどいよね」と言われてはじめて自分の行為を振り返る主人公の気持ちを捉えさせるため、役割演技を取り入れる。すぐには素直になれない気持ちなど、様々な価値観に触れることで道徳的価値の自覚を深めさせる。

5 主な学習活動

段階	学習活動
導入	○みんなの使うものや場所が壊されたり汚されたりしているのを見た経験を話し合う。
展開	○資料を読んで話し合う。 ・主人公はどんな気持ちで「ひどいよね。」と言ったのか考える。 ・「ひどいよね。」と自分が言われたとき、主人公がどんな気持ちになったのか、役割演技を通して話し合い、様々な価値観に触れる。 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">視点1</div>
終末	○これまでの自分を振り返る。 ・周りの人のことを考えて大切にしている約束や決まりにどんなものがあるか経験を話し合う。 ○教師の説話を聞く。 ・児童がマナーを守って気持ちが良かったという話を聞く。

自分の考えを基に表現する機会の充実

- 話し合いは、道徳の時間に最もよく用いられる指導方法です。話し合いを深めるためには、児童それぞれに自分の考えを持たせ、効果的に表現させるなどの工夫が必要です。

何について考えるのかを指導者が明確に示すことや日頃から何でも言い合える学級の雰囲気をつくること、自分とは異なった考えに接する中で学習が深まることを日頃から実感させておくことなどが大切です。

評価の方法

- 道徳性の評価は、教師と児童との心の触れ合いを通して共感的な理解に基づくものにしていくことが大切です。その意味で、児童の自己評価を促す観察や会話、作文やノートなどの記述や質問紙等の方法を適切に生かすように努める必要があります。

道徳の時間においては、指導のねらいとの関わりにおいて児童の心の動きの変化などを様々な方法で捉え、自らの指導を評価し、改善に努めることが大切です。